

我が国における Cadaver Lab普及への課題

平成27年2月6日

千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学
鈴木崇根

臨床医が実施した手技

講座	テーマ	参加人数
整形外科	人工関節置換術、関節鏡、脊椎除圧固定術、 創外固定、複合組織移植ほか多数	143
口腔科学	上顎歯肉悪性腫瘍切除術、下顎枝矢状分割術、 頸部リンパ節郭清術、舌再建術ほか多数	10
耳鼻咽喉科	鼻副鼻腔手術、中耳側頭骨手術	25
脳神経外科	経蝶形骨洞手術、経脳室鏡手術	33
救急集中治療 医学	創外固定、緊急開胸・開腹手術、肺・脾・腎摘 出術ほか多数	26
呼吸器外科	脳死肺移植術	12
生殖医学	超広汎子宮全摘術	5
7講座18件	基本的に全ての手技を実施可能	254

前回報告した課題

- 1.書類審査によるタイムラグ
- 2.委託事業の運用形式
- 3.必要経費
- 4.マンパワー

1. 書類審査によるタイムラグ

- ✓ CAL運営委員会と倫理審査委員会の二つの組織の審査にかかる期間(3~5ヶ月)
- ✓ その間、遺体用冷凍庫の占有が続き、新しい献体の冷凍保存ができない

導入完了
!

対策

申請者へ周知

委員会の定期開催と時期の周知

CAL運営委員会(偶数月) & 倫理審査委員会(奇数月)

技術職員へ指導

Thiel法も導入

遺体用冷凍庫が満室の際はThiel法で保存する

申請者へ周知

肺・消化管を使用する手技教育はThiel法を推奨する(結核・ノロ対策)

2. 委託事業の運用形式

✓ 委託研修事業費の交付要綱

委託期間が単年毎、公募・支給時期が遅く使いにくい

✓ 求められる条件

外部医師の参加の促進

解決？

対策

✓ 事業費支給の時期（夏→春へ）

ゆとりある計画が可能となった

開催実績（H27年1月まで）

問題あり

主催講座	開催数	総参加者数	外部参加者数
7講座	18件	254名	114名

3. 必要経費

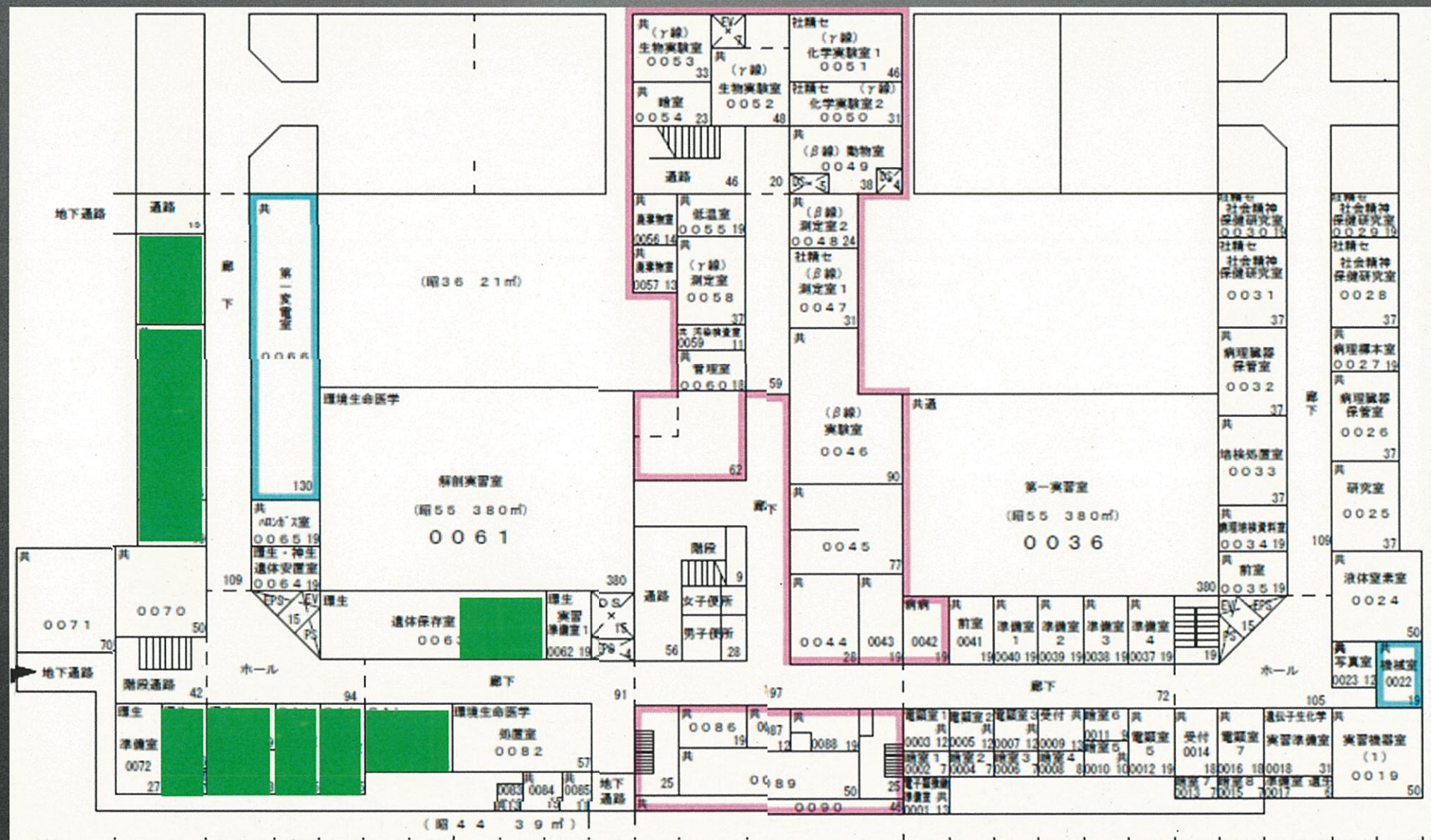
- ✓ 設備・備品の不足
- ✓ レンタル代
- ✓ 消耗品

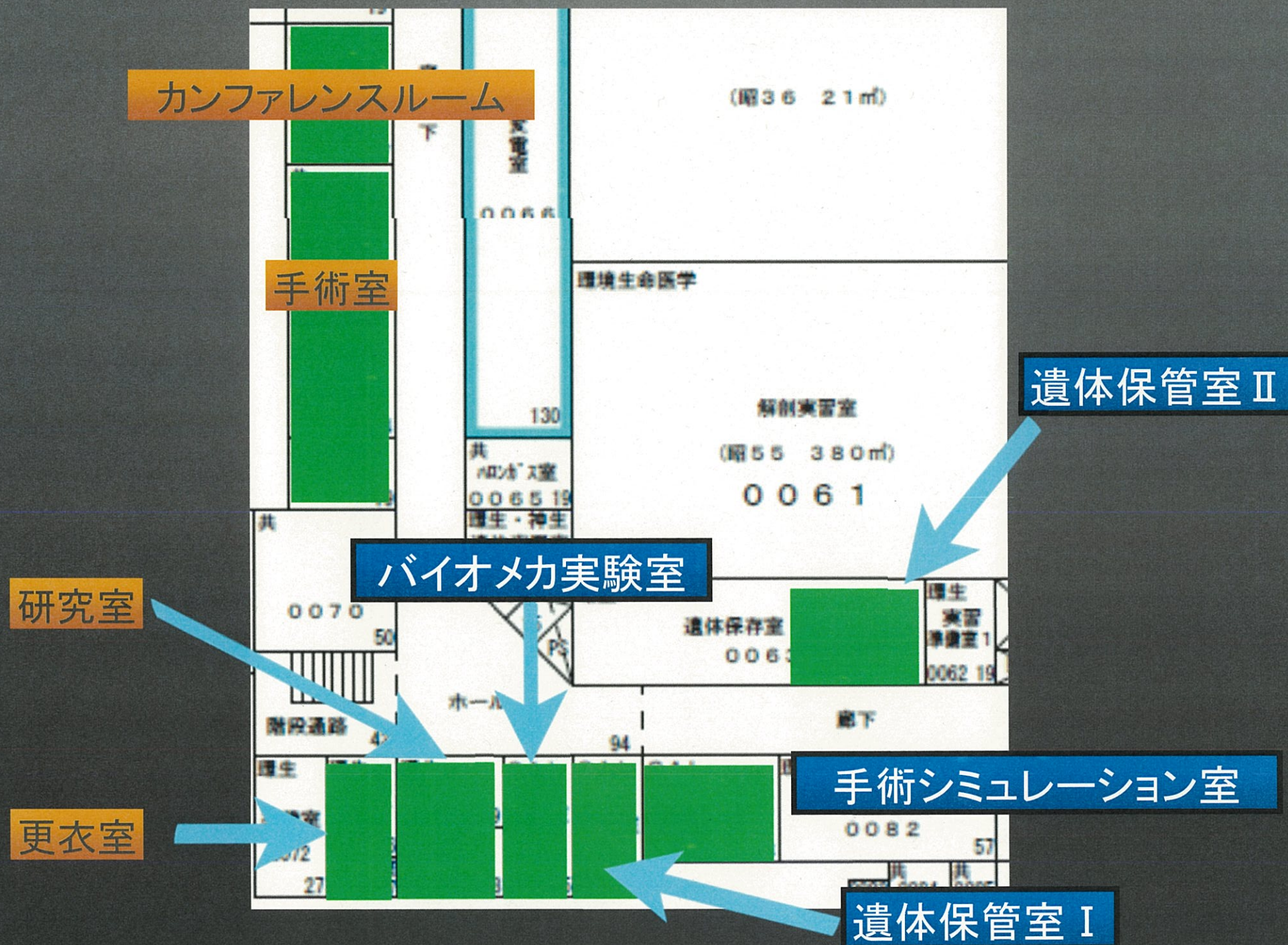
対策

✓ 設備・備品について

- ・ 臨床講座奨学寄付金と学長裁量経費等
- ・ 医学部附属病院手術室の更新時
- ・ 閉院する病院から

医学部地下一階







バイオメカ実験室



手術シミュレーション室



研究室



手術室



カンファレンスルーム

備品

- ・ 手術台＋頭部3点支持器＋無影灯=4セット
- ・ C-arm=3台(新品＋中古)
- ・ 内視鏡=3台(新品＋中古)
- ・ 電気メス=6台(新品＋中古)
- ・ 超音波メス=1台(新品)
- ・ ハイスピードドリル=1台(新品)
- ・ ポータブルドリル=1台(新品)

対策

✓ レンタル代について

- ・ 設備を整えることで圧縮できた

✓ 消耗品について

- ・ 委託研修事業費に依存

小規模なら自前開催可能に！

解決！

ところが・・・

- ・ 1本のスコープ(70万円)の破損発生
- ・ 修理不能につき買い換え

修理・更新までの資金の捻出
大学では難しい・・・

未解決

マンパワー

開催が増える毎に・・・

- ・ 大学スタッフの負担が増加する

寄せられる意見

- ・ 当日立ち会い業務を他のスタッフに依頼する時のストレスが大きい(私)
- ・ 外部医師の手技教育の準備、講師、片付けまでは負担が重い(大学スタッフ)
- ・ 大学スタッフの労務負担(無償)が申し訳なく、共同開催を申し込めない(外部医師)

CAL（≡解剖学教室）としての 負担（無償）

- ・ 教育だけで前日（金曜日）の準備立ち会い、当日（週末）の指導監督（今年度：18回）
- ・ 日常的なCALの管理／運営

本来の業務（解剖学教員）の一環として
実施可能か

臨床講座の負担（無償）

- ・ 事前の打ち合わせ
- ・ 御遺体の準備、片付け

✓どこまでが通常の業務？

学内のみの利用（自分たちの意志）

学内外の参加者／外部団体共催

学外の医師の教育は業務外！

- ・ 委託研修事業費は大学スタッフ、指導監督者に謝礼・給与として使えない
- ・ 指導監督、講師、準備／清掃要員として雇用する方法ができないか

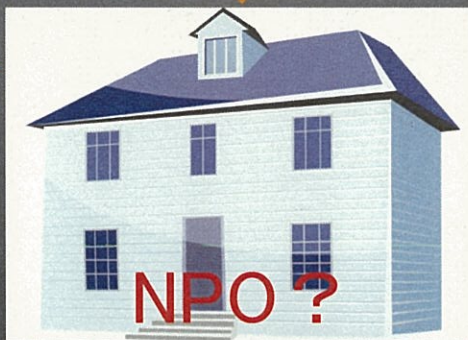
未解決

Cadaver LabにNPO？

提案



開催毎の
後援費(企業)



参加費



謝礼



消耗品
購入



献体者・患者のために
卒後教育として継続するには

実施する側も参加する側も

win-winとなるシステムを構築が必須

(ボランティアに頼ってはいけない)

ご清聴ありがとうございました